NICHINO

2027年3月期第2四半期（中間期）

決算説明会

Global Innovator for Crop & Life

2026年11月25日

証券コード：4997
東証プライム市場

Ⅰ. 世界の農薬市場と当社の状況

Ⅱ. 2027年3月期中間期実績

Ⅲ. 2027年3月期業績見通し

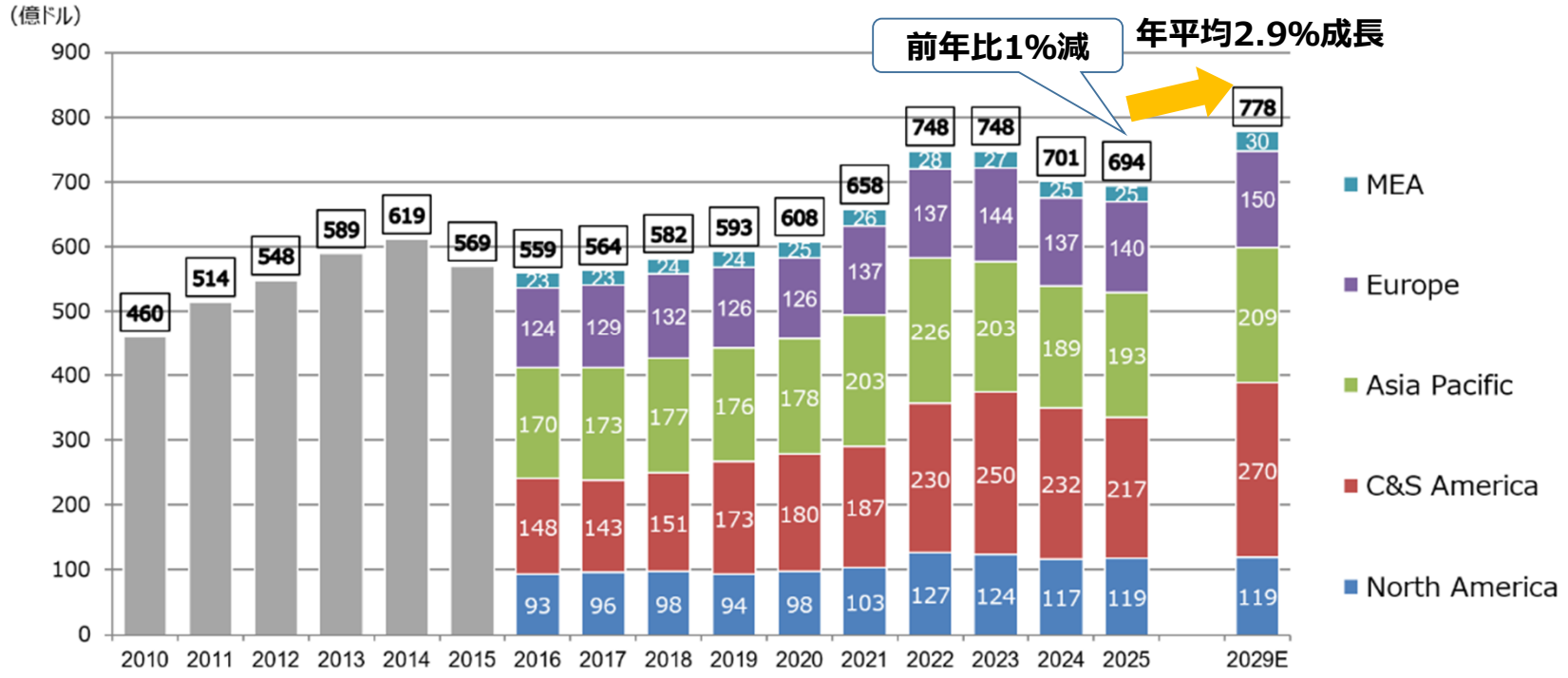
Ⅳ. 中期経営計画への取り組み状況

Ⅴ. 質疑応答

Ⅰ．世界の農薬市場と当社の状況

世界の農薬市場

2025年は価格低迷の影響で市場成長が一時的に足踏みも、中長期的には2029年まで年率約2.9%の成長を予想



出所）AgbioInvestor

2026年度の世界の農薬市場予測と当社の状況

2026年の世界農薬市場は天候と農家のコスト削減で弱含み、価格下落による調整局面が続く状況
当社はSpecialty Crop（果樹・野菜）向けで欧州・北米及び日本で堅調な売上を計上

地域	AgbioInvestor社の世界の農薬市場2026年度予測（ドルベース）	当社の2027年3月期中間期の実績
欧州	前年比▲4.5% 西欧から中欧にかけて高温と深刻な水不足が続き、作物生育の悪化や農薬散布回数の減少により、農薬需要は弱含みで推移	103億円（前年同期比+5%）/66百万ドル（前年同期比▲4%） ・干ばつの影響を受けつつも、ばれいしょやなたね向けの除草剤が販売好調 ・加えて果樹・野菜向け製品の技術普及活動が奏功し、販売シェア拡大 ・第三者向け原体供給ビジネスが減販
アジア太平洋	前年比▲2.8% インドではモンスーン不順の影響で作付や農薬散布が伸び悩み、加えて農家の収益環境悪化や中国の供給過剰による流通在庫の影響により、農薬価格および農薬需要は弱含みで推移	日本を除くアジア：63億円（前年同期比▲14%） /40百万ドル（前年同期比▲22%） ・モンスーン地域偏在により主力の水稲・綿向け販売苦戦。 ・流通在庫の早期健全化のための「戦略的返品受領」の実施 日本：115億円（前年同期比+37%）/74百万ドル（前年同期比＋25%） ・水稲向け製品の販売が好調に推移 ・BASF社の果樹分野向け製品の日本国内での独占販売の寄与
中南米	前年比▲3.2% ブラジルを中心に農業生産環境は比較的良好で農薬需要は底堅く推移するも、中国品を中心としたジェネリック農薬との競争激化により農薬価格は弱含みで推移	60億円（前年同期比▲31%）/39百万ドル（前年同期比▲37%） ・ブラジルで、大豆・サトウキビ向け製品の販売が大幅に減少 ・BtoB取引・新製品の販売立ち上がりの遅延
北米	前年比▲6.5% 米国では干ばつによる農薬散布機会の減少と、肥料・燃料価格上昇による農家の支出抑制により、農薬価格および農薬需要は弱含みで推移	97億円（前年同期比+20%）/62百万ドル（前年同期比＋9%） ・果樹・野菜向け製品の技術普及活動が奏功し、販売シェアが拡大 ・カナダ向けに加え米国内での除草剤販売堅調 ・メキシコ子会社が大幅な成長

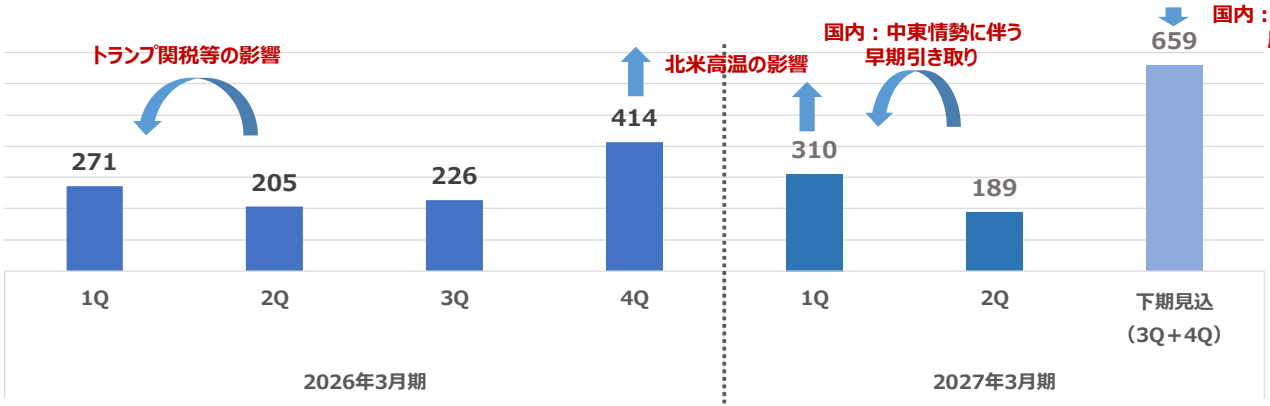
AgbioInvestorを参考に改変

Ⅱ. 2027年3月期 中間期実績

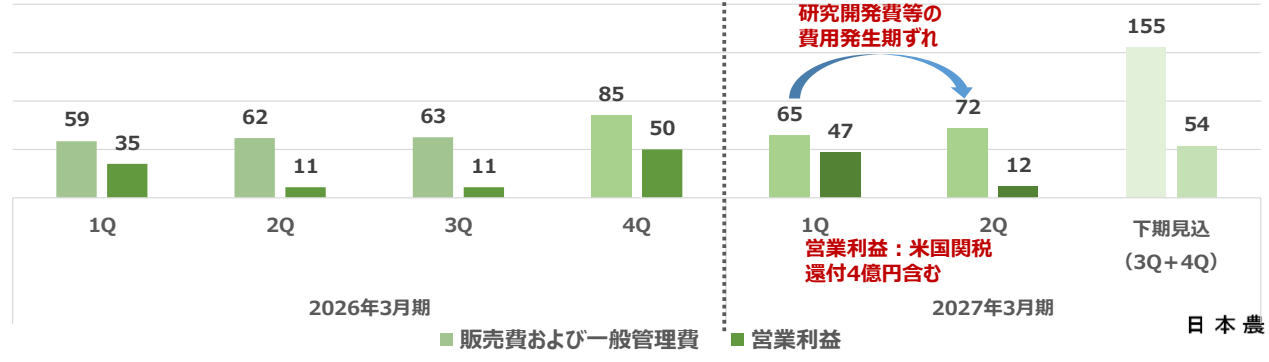
四半期ごとの業績推移

2027年3月期は、中東情勢に伴う国内農薬の早期引き取り需要と研究開発費の期ずれがあるも上期はほぼ想定通りで着地。通期でも中期経営計画における営業利益目標108億円を超える115億円で着地見込

売上高の推移



販管費と営業利益の推移



2027年3月期 中間期実績（前年同期比）

（単位：億円、%）

	27年3月期 中間期 実績	26年3月期 中間期 実績	前年同期比	増減率
売　上　高	500	477	23	5.0
農薬（国内）	115	84	31	37.2
農薬（海外）	332	345	△ 13	△ 3.8
農薬（その他）	16	14	1	8.1
農薬以外の化学品	26	21	4	20.1
そ　の　他	10	10	0	△ 1.4
売 上 原 価	302	307	△ 5	△ 1.9
売上総利益	198	169	29	17.4
販売費及び一般管理費	138	122	16	13.2
営 業 利 益	60	46	13	28.3
経 常 利 益	62	46	15	34.3
親会社株主に帰属する中間純利益	47	33	13	41.0

2027年3月期 中間期実績（前年同期比）

売上高	477億円 → 500億円	（＋	23億円）
営業利益	46億円 → 60億円	（＋	13億円）

国内農薬事業の増益	＋ 12億円
為替影響による増益	＋ 9億円
ノウハウ技術料の増加	＋ 1億円
海外農薬事業の増益 （うち米国での関税還付による原価低減＋4億円）	＋ 1億円
販管費の増加（為替影響除く）	－ 10億円

2027年3月期 中間期実績（業績予想対比）

（単位：億円、%）

	27年3月期 中間期 実績	27年3月期 中間期 業績予想	差異	増減率
売　上　高	500	488	12	2.6
農薬（国内）	115	86	29	34.0
農薬（海外）	332	356	△ 23	△ 6.7
農薬（その他）	16	12	3	30.1
農薬以外の化学品	26	22	3	16.4
そ　の　他	10	10	0	△ 1.9
売 上 原 価	302	296	5	2.0
売上総利益	198	184	14	7.8
販売費及び一般管理費	138	134	3	2.6
営 業 利 益	60	49	11	22.8
経 常 利 益	62	52	10	20.4
親会社株主に帰属する中間純利益	47	38	9	25.2

2027年3月期 中間期実績（業績予想対比）

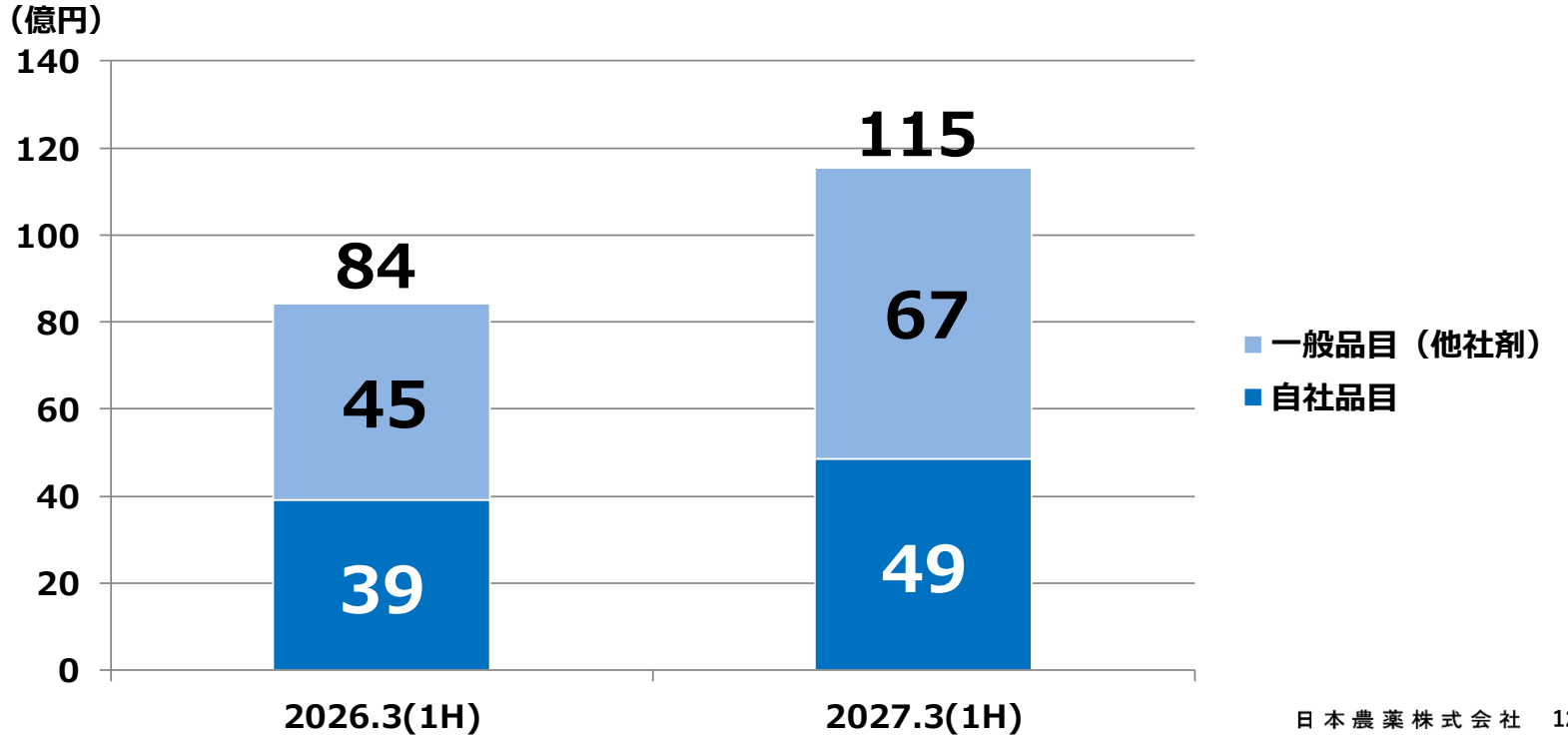
売上高　488億円 → 500億円　（＋12億円）

営業利益　49億円 →　60億円　（＋　11億円）

国内農薬事業の増益	＋　11億円
為替影響による増益	＋　5億円
ノウハウ技術料の増加	＋　3億円
化学品事業の増益	＋　2億円
販管費の減少（為替影響除く）	＋　1億円
海外農薬事業の減益 （うち米国での関税還付による原価低減＋4億円）	－　11億円

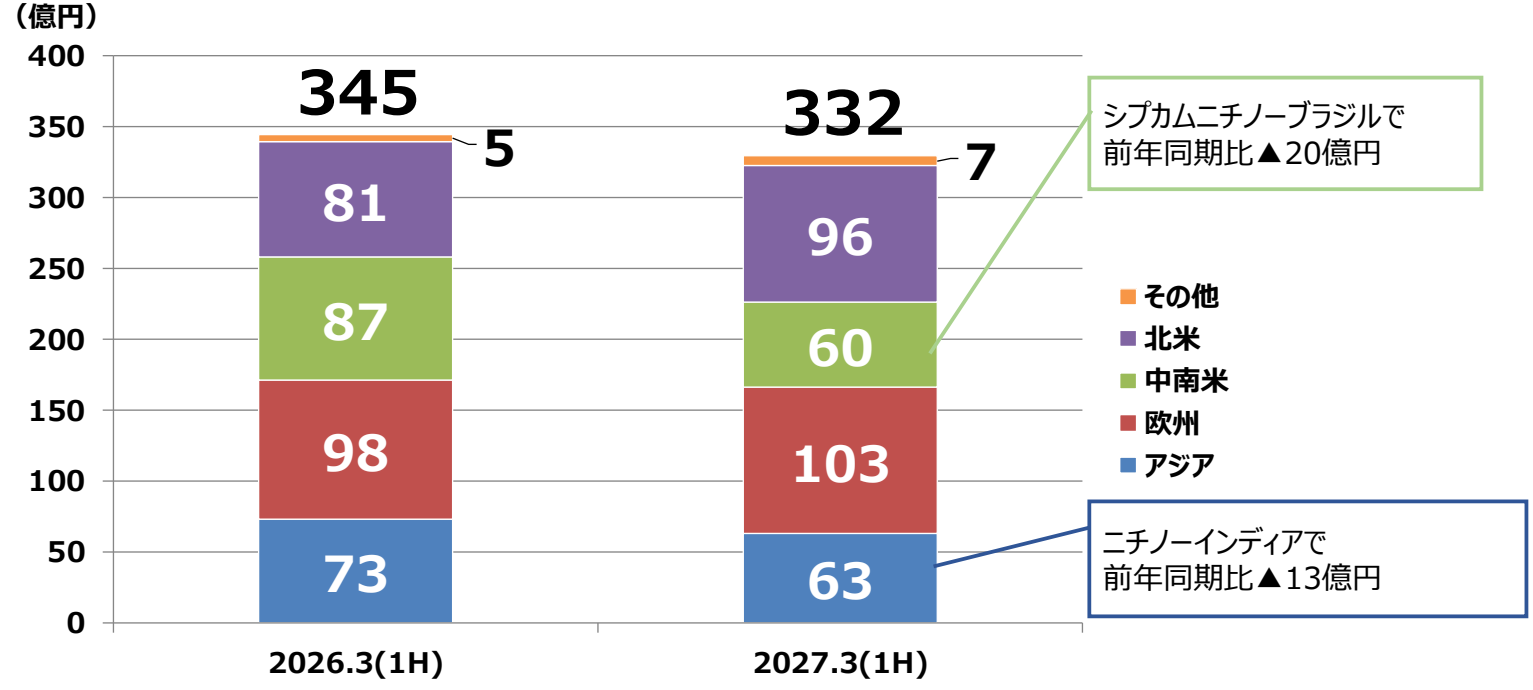
農薬（国内） – 売上高構成比（前年同期比）

水稲向け製品の販売増、コルテバ社製品販売好調、BASF社の果樹分野向け製品の日本国内での独占販売の寄与により増収



農薬（海外） – 地域別売上高（前年同期比）

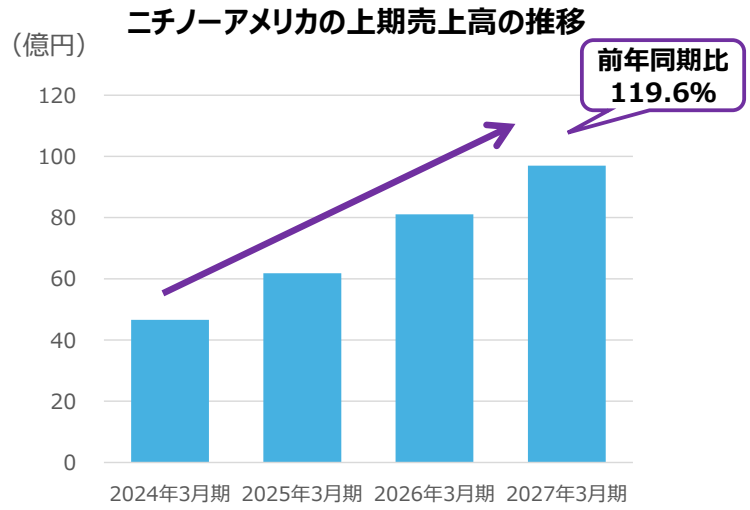
ブラジル及びインドでの販売苦戦により海外農薬売上は減収も、欧米の販売好調により堅調な水準を維持



26.3(1H)実績為替レート	27.3(1H)実績為替レート
142.47円/ドル　165.24円/ユーロ	156.13円/ドル　182.76円/ユーロ

ニチノーアメリカの業績について

春先からの殺虫剤販売の拡大トレンドが継続。堅調な除草剤需要、メキシコ直販体制の寄与等により増収



■実績を牽引した主な好調要因

フェンピロキシメート･ブプロフェジン(殺虫剤)が好調

春先シーズン早期化に伴う、果樹･ナッツ類での害虫の発生早期化･長期化により販売好調

ピラフルフェンエチル(除草剤)が堅調に推移

カナダ向け販売が引き続き堅調に加え、カリフォルニア州等での多雨に伴い、雑草生育が活発化
除草剤需要と販売が的確に連動し高水準を維持

ピラクロニル(除草剤/導入品)が大幅に伸長

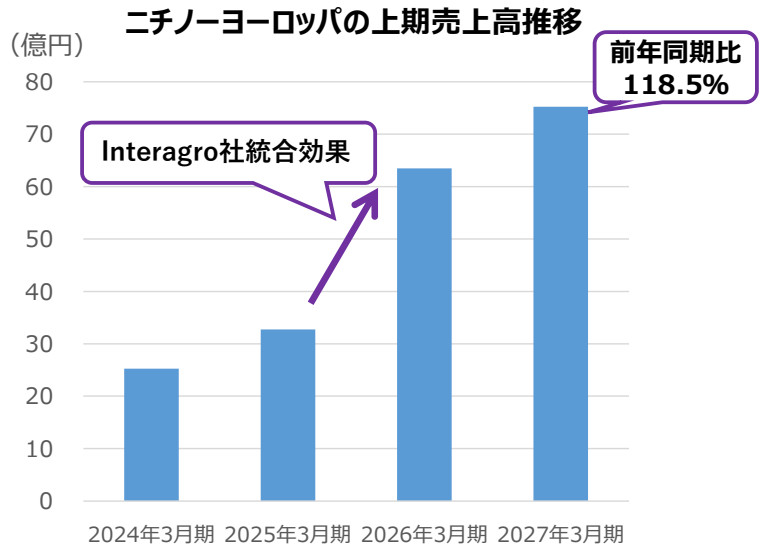
技術普及活動の強化により適切な使用法が現場に定着。製品評価が向上し、販売が大幅に伸長

メキシコ直販体制の伸長

良好な野菜価格を背景に、高付加価値品目を中心の市場開拓が奏功し、メキシコ子会社が大幅な成長を記録(前年+132%)

ニチノーヨーロッパの業績について

記録的干ばつによる厳しい市場環境のなか、主力製品の市場開拓や需要取り込みにより増収



■実績を牽引した主な好調要因

ピラフルフェンエチル(除草剤)の新規用途開拓

バレイショ向けでの販売好調に加え、東欧におけるナタネ枯凋用途など新規市場での販売が拡大

ピリフルキナゾン(殺虫剤)の需要取り込み

北アフリカでの吸汁性害虫防除向け需要が急増し、大幅に販売伸長

Interagro社統合、自社品直販の進展

製品ポートフォリオの拡充、英国・アイルランドでの直販体制推進がベース収益を下支え

ニチノーインディアの業績について

モンスーン偏在などの天候要因や市場環境悪化による減収減益。高収益化・効率化・財務強化を推進していく

【マイナス要因】

1.天候不順と市場冷え込み
モンスーン降雨の地域偏在と南部地域を中心とした、干ばつおよび貯水率低下による、農作物の作付遅延と農薬需要低迷

2.流通在庫調整と価格競争激化による販売低迷
・主力の水稲・綿向け販売低迷
・流通在庫の早期健全化に向け戦略的に返品受領
・価格競争による市場価格の低迷

【プラス要因】

生産能力増強による成長基盤の強化
原体や中間体の生産能力増強。日本農薬グループ向けの生産機能を拡充し、中長期的な成長基盤の強化

【今後の業績改善に向けた取り組み】

1.高収益製品への販売資源集中
・利益性の高い自社品目へのリソース集中
・成長分野であるバイオロジカル製品や新規混合剤の販売を強化。
・Eコマース販売のトライアル開始

2.コスト構造改革
各種コスト削減と、原料調達コストの見直しや生産効率向上推進

3.財務・キャッシュフロー改善
在庫圧縮および債権回収の強化による運転資本の改善と有利子負債の圧縮

シプカムニチノーブラジルの業績について

農業市況悪化による減収減益。高収益化・効率化・財務強化を推進していく

【マイナス要因】

1.ブラジル農業市場の低迷
農産物価格の下落や高金利環境の継続により農家の収益・資金繰りが悪化し、農薬の購入時期後ろ倒しや購入量・購入価格の抑制

2.主力製品販売の低迷と価格競争激化
大豆・サトウキビ向け製品の販売が大幅に減少。競争環境の悪化に伴う価格下落圧力も強まり、販売数量・単価の両面で苦戦

3.流通環境悪化と新規案件の遅延
卸店や農業法人の与信リスクの上昇による販売機会の減少。BtoB取引・新製品の販売立ち上がりの遅延

【プラス要因】

資金調達環境の改善
当社及びSipcam社による増資実施を通じた自己資本の拡充と財務体質の改善及び金融コスト低減

【今後の業績改善に向けた取り組み】

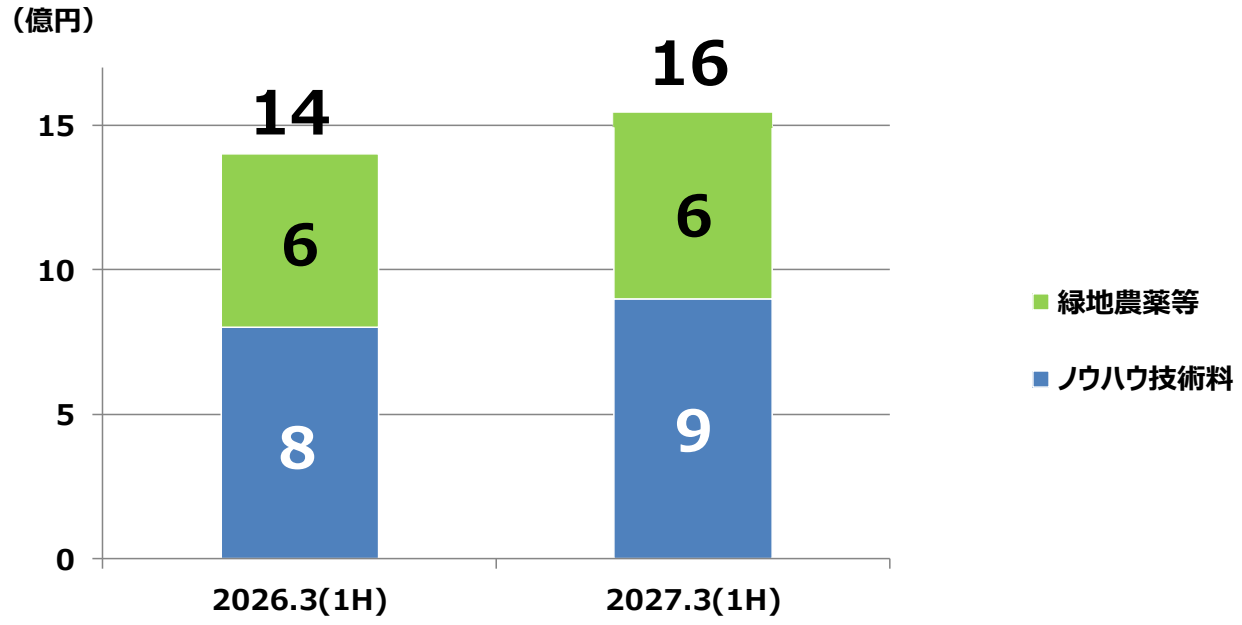
1.高収益製品への販売資源集中
利益率の高い自社製品やSpecialty Crop（果樹・野菜）向け製品への販売資源集中による製品ポートフォリオの高付加価値化

2.コスト構造改革
各種コストの削減による固定費負担の軽減と収益体質の強化

3.財務基盤の強化とリスク管理の徹底
与信管理・債権回収の強化による貸倒リスクの低減ならびに在庫水準の適正化を通じたキャッシュフロー改善

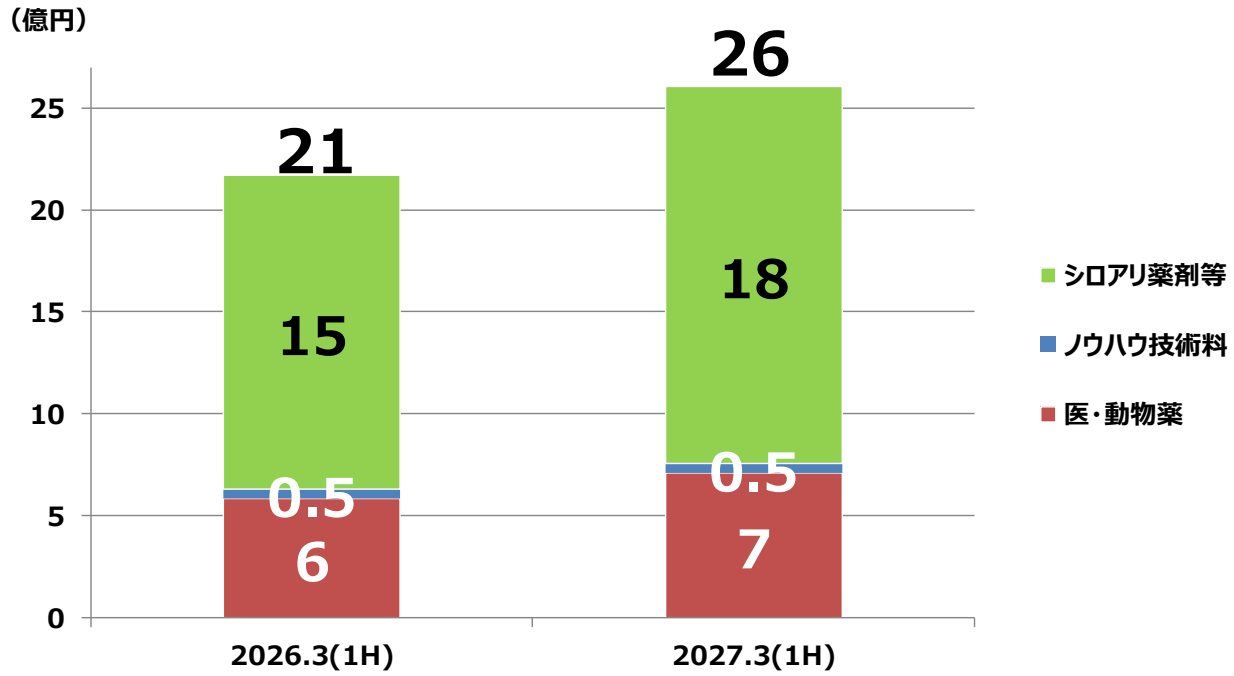
農薬（その他）（前年同期比）

ノウハウ技術料が増加



農薬以外の化学品（前年同期比）

シロアリ薬剤や医薬品が増収



国内グループ会社主要業績（中間期前年同期比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 中間期 実績	26年3月期 中間期 実績	前年同期比	増減率
日本農薬	売上高	30,378	27,542	2,835	10.3
	営業利益	4,229	2,966	1,263	42.6
	当期純利益	5,632	3,440	2,192	63.7
ニチノーサービス	売上高	2,053	1,933	120	6.2
	営業利益	71	41	29	72.4
	当期純利益	39	13	25	190.8
ニチノー緑化	売上高	1,098	1,080	17	1.6
	営業利益	1	17	△ 16	△ 90.8
	当期純利益	1	14	△ 12	△ 89.3
日本エコテック	売上高	536	515	20	4.0
	営業利益	25	73	△ 47	△ 65.5
	当期純利益	23	48	△ 25	△ 51.7
アグリマート	売上高	1,848	1,536	312	20.4
	営業利益	341	281	59	21.1
	当期純利益	229	183	45	24.9

国内グループ会社主要業績（中間期業績予想対比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 中間期 実績	27年3月期 中間期 業績予想	差異	増減率
日本農薬	売上高	30,378	27,341	3,036	11.1
	営業利益	4,229	2,662	1,567	58.9
	当期純利益	5,632	3,640	1,992	54.7
ニチノーサービス	売上高	2,053	2,087	△ 33	△ 1.6
	営業利益	71	47	23	49.4
	当期純利益	39	51	△ 11	△ 22.4
ニチノー緑化	売上高	1,098	1,135	△ 37	△ 3.3
	営業利益	1	△ 4	6	—
	当期純利益	1	△ 4	5	—
日本エコテック	売上高	536	537	0	△ 0.1
	営業利益	25	47	△ 22	△ 47.3
	当期純利益	23	32	△ 8	△ 27.0
アグリマート	売上高	1,848	1,629	219	13.4
	営業利益	341	290	50	17.4
	当期純利益	229	186	43	23.4

海外グループ会社主要業績（中間期前年同期比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 中間期 実績	26年3月期 中間期 実績	前年同期比	増減率	売上高 為替換算レート(円)	
ニチノーアメリカ	売上高	9,695	8,104	1,591	19.6	米ドル	
	営業利益	1,804	788	1,016	128.9	26.3(1H)実績	145.88
	当期純利益	1,423	606	816	134.6	27.3(1H)実績	159.51
日佳農葯	売上高	234	167	67	40.1	台湾ドル	
	営業利益	21	△ 4	26	—	26.3(1H)実績	4.83
	当期純利益	19	△ 1	21	—	27.3(1H)実績	5.03
ニチノーインディア	売上高	3,787	5,156	△ 1,369	△ 26.6	インドルピー	
	営業利益	32	233	△ 200	△ 86.1	26.3(1H)実績	1.70
	当期純利益	△ 48	39	△ 87	—	27.3(1H)実績	1.69
シプカムニチノーブラジル	売上高	5,423	7,437	△ 2,014	△ 27.1	ブラジルレアル	
	営業利益	△ 492	166	△ 659	—	26.3(1H)実績	25.86
	当期純利益	△ 782	△ 326	△ 456	—	27.3(1H)実績	30.49
ニチノーヨーロッパ	売上高	7,524	6,347	1,176	18.5	英ポンド	
	営業利益	1,346	1,138	208	18.3	26.3(1H)実績	194.66
	当期純利益	1,030	962	67	7.0	27.3(1H)実績	214.08
ニチノーベトナム	売上高	797	532	265	49.9	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	89	19	69	352.9	26.3(1H)実績	0.59
	当期純利益	76	7	68	879.5	27.3(1H)実績	0.63

海外グループ会社主要業績（中間期業績予想対比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 中間期 実績	27年3月期 中間期 業績予想	差異	増減率	売上高 為替換算レート(円)	
ニチノーアメリカ	売上高	9,695	8,939	755	8.5	米ドル	
	営業利益	1,804	1,006	798	79.4	27.3(1H)実績	159.51
	当期純利益	1,423	795	628	79.0	2027.3計画	150.00
日佳農荼	売上高	234	169	65	38.6	台湾ドル	
	営業利益	21	△ 7	29	—	26.3(1H)実績	5.03
	当期純利益	19	△ 4	23	—	2027.3計画	5.00
ニチノーインディア	売上高	3,787	6,089	△ 2,302	△ 37.8	インドルピー	
	営業利益	32	314	△ 281	△ 89.6	27.3(1H)実績	1.69
	当期純利益	△ 48	98	△ 146	—	2027.3計画	1.70
シプカムニチノーブラジル	売上高	5,423	6,084	△ 661	△ 10.9	ブラジルレアル	
	営業利益	△ 492	△ 112	△ 379	—	27.3(1H)実績	30.49
	当期純利益	△ 782	△ 459	△ 322	—	2027.3計画	26.00
ニチノーヨーロッパ	売上高	7,524	7,296	227	3.1	英ポンド	
	営業利益	1,346	1,191	154	13.0	27.3(1H)実績	214.08
	当期純利益	1,030	910	119	13.2	2027.3計画	200.00
ニチノーベトナム	売上高	797	649	148	22.9	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	89	24	65	268.8	27.3(1H)実績	0.63
	当期純利益	76	12	63	490.7	2027.3計画	0.60

Ⅲ. 2027年3月期業績見通し

2027年3月期業績見込（期初業績予想比）

（単位：億円、%）

	27年3月期 見込	27年3月期 期初業績予想	差異	増減率
売　上　高	1,160	1,160	0	0.0
農薬（国内）	279	267	12	4.6
農薬（海外）	789	808	△ 18	△ 2.3
農薬（その他）	25	20	4	23.8
農薬以外の化学品	44	40	3	9.7
そ　の　他	21	23	△ 1	△ 8.1
売 上 原 価	730	751	△ 20	△ 2.7
売上総利益	418	408	10	2.5
販売費及び一般管理費	303	293	10	3.4
営 業 利 益	115	115	0	0.0
経 常 利 益	110	110	0	0.0
親会社株主に帰属する当期純利益	74	74	0	0.0
ROE(自己資本当期純利益率)	8.5%	8.5%		

2027.3下期為替レート
155.00円/ドル
175.00円/ユーロ

2027.3期初予想為替レート
150.00円/ドル
175.00円/ユーロ

2027年3月期業績見込（期初業績予想比）

売上高 1,160億円 → 1,160億円（変更なし）		
営業利益 115億円 → 115億円（変更なし）		
為替影響による増益	＋	8億円
ノウハウ技術料	＋	3億円
国内農薬事業の増益	＋	2億円
海外農薬事業の減益	－	11億円
販管費の増加（為替影響除く）	－	2億円

2027年3月期業績見込（前期比）

（単位：億円、%）

	27年3月期 見込	26年3月期 実績	前期比	増減率
売　上　高	1,160	1,118	41	3.7
農薬（国内）	279	255	23	9.4
農薬（海外）	789	776	13	1.7
農薬（その他）	25	23	2	12.4
農薬以外の化学品	44	41	2	7.0
そ　の　他	21	21	0	△ 2.8
売 上 原 価	730	737	△ 6	△ 0.9
売上総利益	418	380	37	9.8
販売費及び一般管理費	303	271	31	11.5
営 業 利 益	115	108	6	5.7
経 常 利 益	110	105	4	4.5
親会社株主に帰属する当期純利益	74	72	1	2.4
ROE(自己資本当期純利益率)	8.5%	8.9%		

2027.3下期為替レート
155.00円/ドル
175.00円/ユーロ

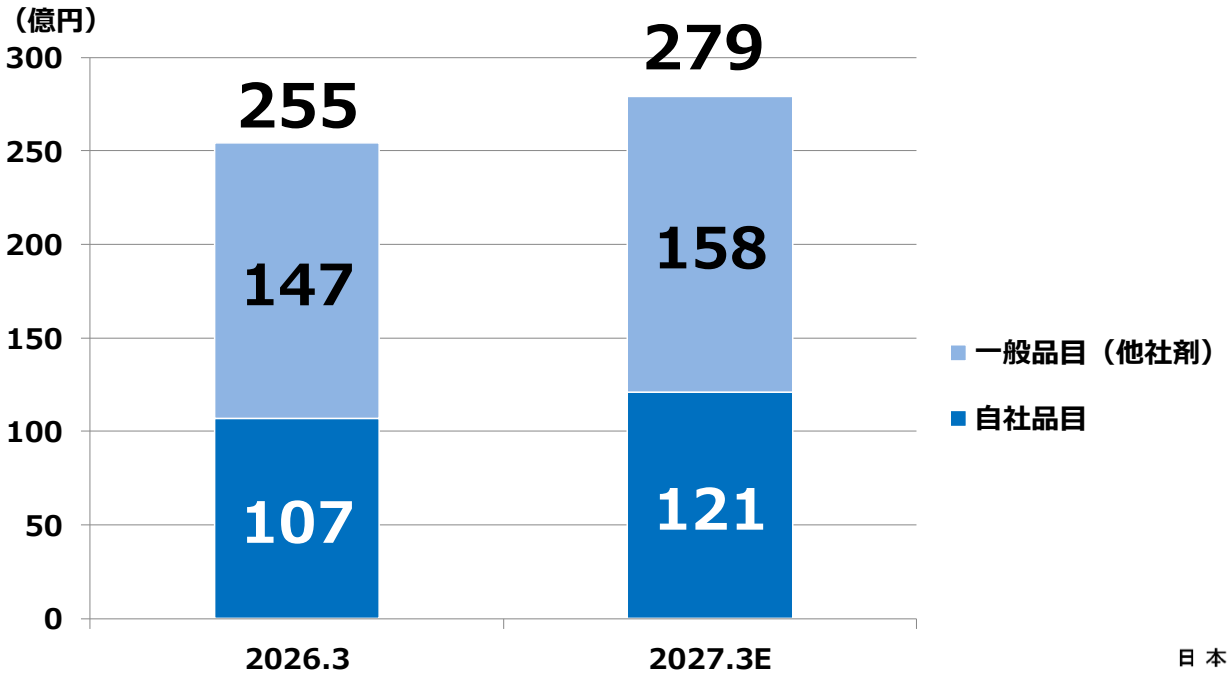
2026.3実績為替レート
145.81円/ドル
171.37円/ユーロ

2027年3月期業績見込（前期比）

売上高 1,118億円 → 1,160億円	（＋ 41億円）
営業利益 108億円 → 115億円	（＋ 6億円）
海外農薬事業の増益	＋ 16億円
為替影響による増益	＋ 9億円
国内農薬事業の増益	＋ 6億円
ノウハウ技術料	＋ 2億円
販管費の増加（為替影響除く）	－ 26億円
化学品事業の減益	－ 1億円

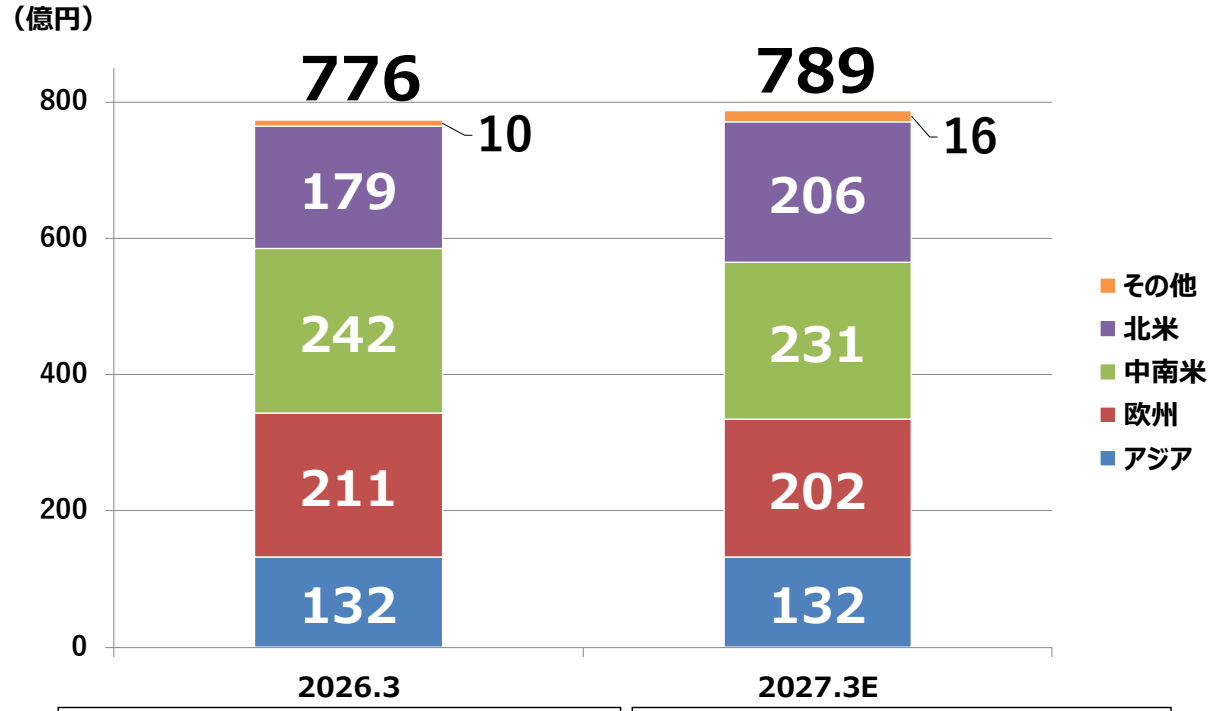
農薬（国内）– 売上高構成比（前期比）

自社品の増販とBASF社の果樹用農薬の独占販売権獲得の通期寄与により増収



農薬（海外）– 地域別売上高（前期比）

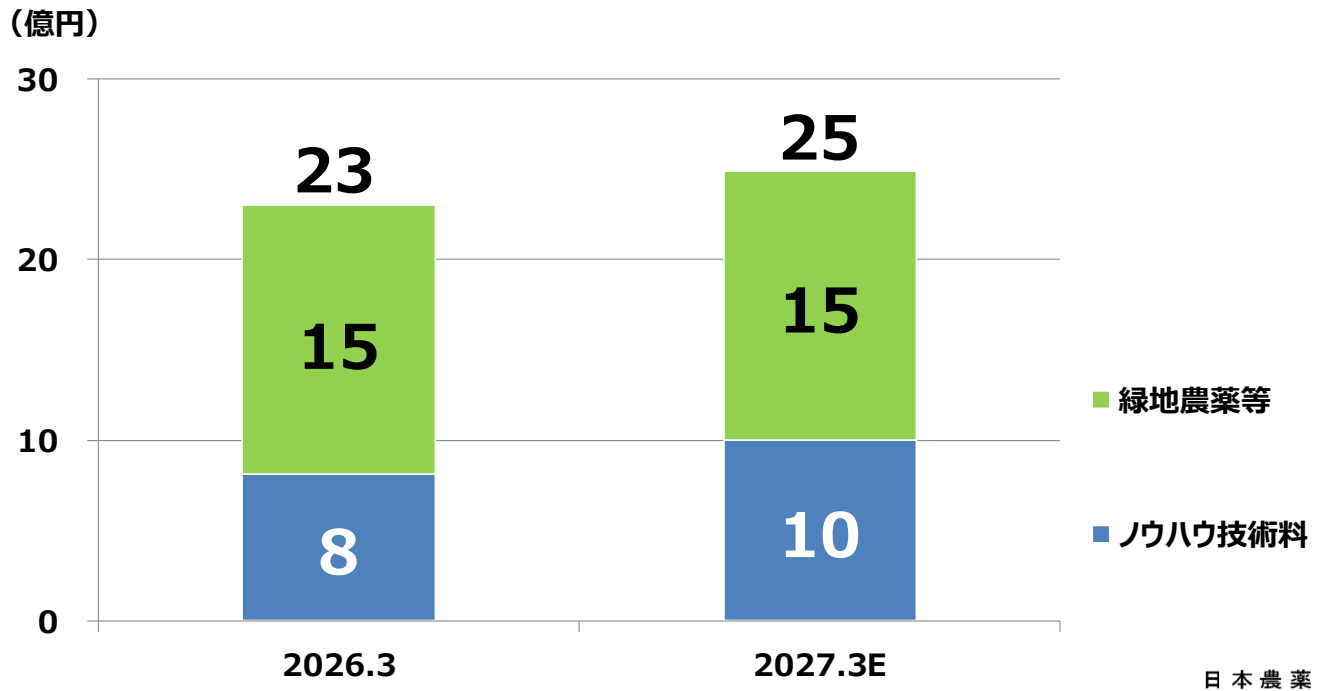
北米での除草剤・殺虫剤販売好調などにより増収



2026.3実績為替レート ： 145.81円/ドル 171.37円/ユーロ	2027.3下期為替レート： 155円/ドル 175円/ユーロ

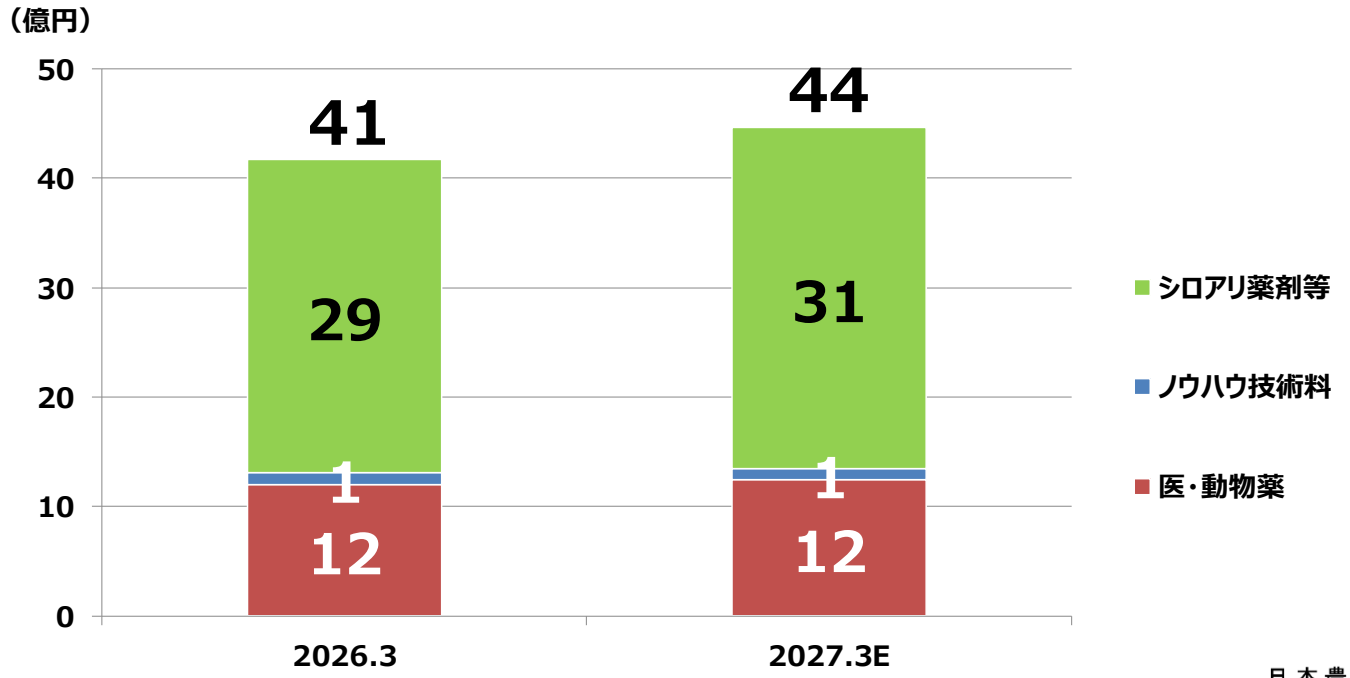
農薬（その他）（前期比）

ノウハウ技術料は増加の見込み



農薬以外の化学品（前期比）

シロアリ薬剤等が増収



配当計画

累進配当を基本とし、配当性向40%を目安とする方針のもと年間38円の計画

			23.3	24.3	25.3	26.3	27.3E
親会社に帰属する当期純利益		百万円	4,488	4,777	2,356	7,228	3,800
配当総額		百万円	1,260	1,417	1,732	2,835	2,975
1株当たり配当金	中間	円	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0
	期末	円	8.0	9.0	12.0	24.0	24.0
	合計	円	16.0	18.0	22.0	36.0	38.0
配当性向		%	28.0	29.6	73.2	39.0	40.2

国内グループ会社主要業績見込（期初業績予想比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 見込	27年3月期 期初業績予想	差異	増減率
日本農薬	売上高	59,724	58,946	777	1.3
	営業利益	4,980	4,537	442	9.8
	当期純利益	6,258	5,064	1,193	23.6
ニチノーサービス	売上高	4,450	4,476	△ 26	△ 0.6
	営業利益	193	192	1	0.8
	当期純利益	126	136	△ 10	△ 7.4
ニチノー緑化	売上高	2,327	2,532	△ 205	△ 8.1
	営業利益	78	78	0	0.0
	当期純利益	51	51	0	0.1
日本エコテック	売上高	1,050	1,100	△ 50	△ 4.5
	営業利益	17	104	△ 87	△ 83.5
	当期純利益	18	69	△ 50	△ 72.7
アグリマート	売上高	3,117	2,860	257	9.0
	営業利益	407	360	46	12.8
	当期純利益	279	231	48	21.0

国内グループ会社主要業績見込（前期比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期	26年3月期		
		見込	実績	前期比	増減率
日本農薬	売上高	59,724	57,361	2,362	4.1
	営業利益	4,980	4,092	887	21.7
	当期純利益	6,258	4,619	1,638	35.5
ニチノーサービス	売上高	4,450	4,240	210	5.0
	営業利益	193	184	8	4.9
	当期純利益	126	105	21	20.2
ニチノー緑化	売上高	2,327	2,297	29	1.3
	営業利益	78	73	5	7.1
	当期純利益	51	49	2	4.7
日本エコテック	売上高	1,050	1,081	△ 31	△ 2.9
	営業利益	17	103	△ 85	△ 83.2
	当期純利益	18	69	△ 50	△ 72.7
アグリマート	売上高	3,117	2,863	254	8.9
	営業利益	407	428	△ 21	△ 4.9
	当期純利益	279	279	0	△ 0.0

海外グループ会社主要業績見込（期初業績予想比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 見込	27年3月期 期初業績予想	差異	増減率	売上高 為替換算レート(円)	
ニチノーアメリカ	売上高	20,660	20,658	1	0.0	米ドル	
	営業利益	3,381	2,561	819	32.0	2027.3期初予想	150.00
	当期純利益	2,568	1,951	616	31.6	2027.3下期	155.00
日佳農薬	売上高	414	411	2	0.7	台湾ドル	
	営業利益	14	0	14	13945.2	2027.3期初予想	5.00
	当期純利益	15	3	11	316.6	2027.3下期	5.00
ニチノーインディア	売上高	9,068	11,427	△ 2,359	△ 20.6	インドルピー	
	営業利益	302	633	△ 331	△ 52.3	2027.3期初予想	1.70
	当期純利益	33	202	△ 168	△ 83.2	2027.3下期	1.70
シプカムニチノーブラジル	売上高	21,804	21,383	420	2.0	ブラジルレアル	
	営業利益	1,401	1,658	△ 256	△ 15.5	2027.3期初予想	26.00
	当期純利益	△ 131	197	△ 328	—	2027.3下期	26.00
ニチノーヨーロッパ	売上高	15,180	14,333	847	5.9	英ポンド	
	営業利益	2,091	1,947	144	7.4	2027.3期初予想	200.00
	当期純利益	1,614	1,493	121	8.1	2027.3下期	206.00
ニチノーベトナム	売上高	1,631	1,365	266	19.5	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	97	29	67	228.1	2027.3期初予想	0.60
	当期純利益	71	10	60	573.8	2027.3下期	0.60

海外グループ会社主要業績見込（前期比）

（単位：百万円、%）

		27年3月期 見込	26年3月期 実績	前期比	増減率	売上高 為替換算レート(円)	
ニチノーアメリカ	売上高	20,660	17,981	2,678	14.9	米ドル	
	営業利益	3,381	2,483	898	36.2	2026.3実績	151.41
	当期純利益	2,568	2,369	198	8.4	2027.3下期	155.00
日佳農葯	売上高	414	355	58	16.5	台湾ドル	
	営業利益	14	△ 50	65	—	2026.3実績	4.90
	当期純利益	15	△ 36	51	—	2027.3下期	5.00
ニチノーインディア	売上高	9,068	10,133	△ 1,065	△ 10.5	インドルピー	
	営業利益	302	398	△ 96	△ 24.1	2026.3実績	1.72
	当期純利益	33	112	△ 78	△ 69.8	2027.3下期	1.70
シプカムニチノーブラジル	売上高	21,804	22,053	△ 248	△ 1.1	ブラジルレアル	
	営業利益	1,401	1,570	△ 169	△ 10.8	2026.3実績	27.19
	当期純利益	△ 131	△ 751	619	—	2027.3下期	26.00
ニチノーヨーロッパ	売上高	15,180	14,789	391	2.6	英ポンド	
	営業利益	2,091	1,986	105	5.3	2026.3実績	202.37
	当期純利益	1,614	1,611	3	0.2	2027.3下期	206.00
ニチノーベトナム	売上高	1,631	1,276	354	27.8	ベトナムドン（100ドン）	
	営業利益	97	76	20	27.2	2026.3実績	0.61
	当期純利益	71	57	13	24.2	2027.3下期	0.60

Ⅳ. 中期経営計画への取り組み状況

中期経営計画 Growing Global for Sustainability（GGS）



企業価値向上策① バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

世界的な環境規制の強化



- 化学農薬に対する規制強化
- 環境負荷低減への要請
- 石油由来原料への依存低減

化学農薬以外の農業資材に対するニーズの拡大



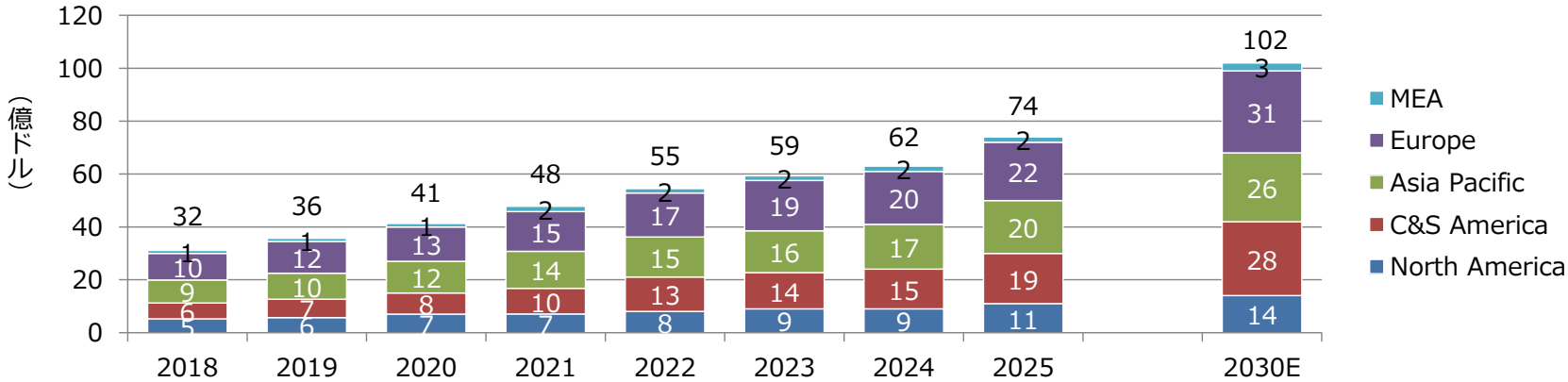
- バイオステミュラント
- 天然物由来の農業資材
- 生物農薬

当社グループの対応



- 事業環境の変化への対応
- 事業ポートフォリオの拡充
- 新たな収益源の創出

生物農薬・バイオスティミュラント(BS)の市場規模



出所）AgbioInvestor

企業価値向上策①　バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

NICHINO グループの非有機化学農薬分野の農業資材

BS　バイオスティミュラント
Biostimulants



植物や土壌が本来持つ機能を補助し、栄養分の吸収・利用効率や、高温・乾燥などの非生物的ストレスへの耐性を改善する農業資材。さまざまな物質や微生物を活用し、作物の品質・収量の安定化に貢献する。

BP　生物農薬
Biopesticide



微生物や天敵生物そのものや、その抽出物を活用し、作物を病害虫から守る農薬。化学農薬とは異なる作用によって防除体系の選択肢を広げ、総合的病害虫・雑草管理（IPM）でも活用される。

ADJ　アジュバント/機能性展着剤
adjuvant



農薬の付着・拡展・浸透性を高めるほか、薬液の安定化やドリフト低減などにより、農薬の性能を引き出し、安定した防除を支える製品群。規制上の位置づけは国・地域によって異なり、農薬登録が必要となる場合もある。

NPs　天然物由来農薬
NP-based Pesticides



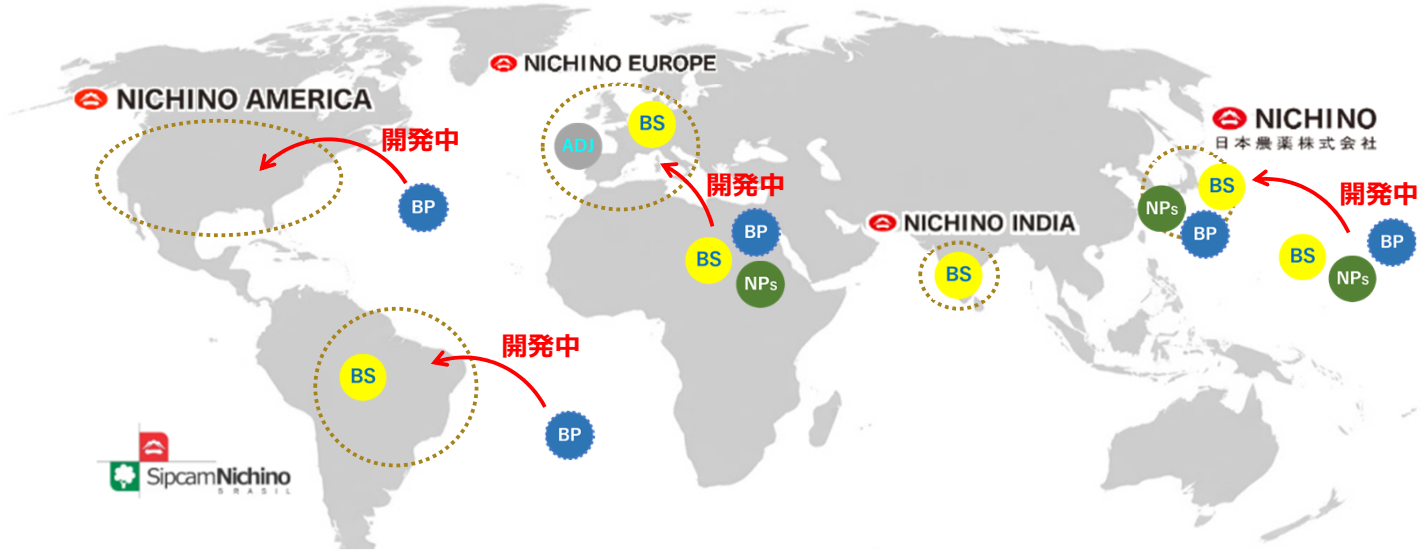
鉱物、植物などに由来する成分を活用し、病害虫の防除を通じて作物の健全な生育を支える農薬。無機銅剤や精製油など、幅広い場面に対応する製品を展開。有機農産物栽培にも使用できる製品も多い。

<u>化学農薬規制の強化を追い風に、需要拡大が期待される成長領域</u>

企業価値向上策①　バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

世界100億円 を目標に展開、
市場ニーズの高まりを受け、各地で新剤を開発中

BS バイオステミュラント
BP 生物農薬
ADJ アジュバント
NPs 天然物由来農薬



企業価値向上策①　バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

日本での製品展開　～みどりの食料システム戦略にも対応する幅広い製品ラインナップ～

BS バイオステミュラント



「クロスバリュー」は、有効成分(微生物)が植物の健全な生育を支え、乾燥や**高温などの環境ストレスへの耐性向上**に貢献。収量の安定化や品質向上に加え、猛暑など**気候変動にも対応**。

BP 生物農薬



＋ NEW PRODUCTS

生物殺菌剤「ボトキラー」を展開し、環境負荷低減型の病害防除を提供するとともに、生物農薬ポートフォリオのさらなる拡充に向け、**新規剤の開発**を推進。

NPs 天然物由来農薬



無機銅剤や高度精製油製剤など、天然物由来で**有機栽培でも使用することができる農薬を幅広く展開**。中でも国内における無機銅剤は同分野で20%という高いシェアを誇る。

企業価値向上策①　バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

NICHINO EUROPEでの製品展開　～IA社製品を加え化学農薬規制下でも販売拡大～

ADJ アジュバント







Interagro社の技術・製品を活用し、アジュバント事業を強化。農薬の付着性・浸透性向上、ドリフト抑制、水質・pH調整などにより農薬性能の最大化を実現するとともに、莢の裂開防止や土壌環境改善など幅広いニーズに対応。**当社主力農薬との組み合わせ**提案を通じ、**総合的な作物保護ソリューション**を提供。

NPs 天然物由来農薬



天然由来のペラルゴン酸を基礎とする殺菌剤「**TEMAP**」や、ピロリン酸第二鉄を有効成分とするナメクジ防除剤「**Vitrol**」など、有望な製品を市場投入に向け開発中。

企業価値向上策①　バイオリソースを活用した新たな事業領域の拡大

Nichino Europeによる天然物由来殺菌剤「TEMAP」の知財権取得

概要

取得先：ベルギーのBi-PA社

取得内容：同社が創出し特許を取得した天然物由来のバイオ殺菌剤「TEMAP」に関する欧州・中東・アフリカ（EMEA）地域における知的財産権を取得

天然物由来成分

有効成分：ペラルゴン酸コリン塩



ペラルゴン酸：
トウモロコシや茶などの食品にも含まれる脂肪酸の一種



コリン：
動植物の器官に含まれる脂質の構成成分。

広範な主要病害への効果



ブドウべと病、ばれいしょ疫病、リンゴ黒星病、麦類葉枯病、各種作物うどんこ病などに対し優れた予防効果・治療効果を発揮

今後の予定

2028年登録申請に向けて、開発を推進。
2030年の上市を目指す

企業価値向上策②
研究開発の強化（シベンゾキサスルフィルの進捗）

シベンゾキサスルフィル(CBX)の特長

●幅広い害虫種に対して高い殺虫活性を示す

園芸作物（specialty crop）の栽培上問題となる、チョウ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハエ目といった広範囲の害虫に高い効果を示し、汎用性が高い殺虫剤



コナガ	ハイマダラノメイガ	アオムシ	ﾁｬﾉﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ	キスジノミハムシ	ナモグリバエ
チョウ目			カメムシ目	コウチュウ目	ハエ目

●既存剤に対して感受性が低下した害虫種に有効

新規作用性を有し、既存剤に感受性の低下した害虫に対しても有効、作物の安定生産に貢献できる

●浸透移行活性が高く、土壌処理効果を示す。

セルトレイ灌注※処理での実用性が確認されており、利便性の高い害虫防除剤として、生産者の省力化にも寄与する

2025年：登録申請完了

日本：売上計画　20億円

韓国：売上計画　 4億円

2026年：インドで登録申請完了

インド：売上計画　9億円

2028年以降：登録認可/上市（予定）

市場性のあるその他の国や地域で評価を進め、
登録国/地域・対象作物・使用方法をさらに拡大。

ピーク時売上高目標：**50億円**以上

※「セルトレイ灌注」:育苗トレイ(プラスチックの小さなマス)で育てた苗に液体の薬剤を注ぐ処理。

企業価値向上策③
スマート農業への取り組み

農業生産者支援アプリ
レイミーのAI病害虫雑草診断



30 作物の診断に対応!

45 万 ダウンロード!!

1100 以上の診断対象!!!

海外展開を加速！

海外アプリ名
AcroSeeker™

2022年 インド、台湾、ベトナム
2023年 韓国
2024年 インドネシア、ラオス
2026年 マレーシア

■新機能「情報ひろば」をリリース

栽培作物や関心に合わせて、その時期に役立つ農業情報をお届け。



【海外EC展開】Eコマース企業との連携開始

インド市場を皮切りに、海外ではAI診断から購買までのマネタイズモデル構築を目指す。

アプリでのAI診断 ▶ 有効薬剤のレコメンド・店舗紹介 ▶ ECシームレスな購買

2026年9月
インド最大手農資材EC企業とのトライアル取引開始

企業価値向上策④
非財務価値の取り組み／くるみん認定取得、従業員エンゲージメント

「くるみん」認定を取得

NICHINOグループは、多様な人財が個々の力を最大限に発揮できる組織づくりを目指し、DE＆Iを経営の重要課題として位置付けています。より柔軟な働き方の実現を目指した職場環境の整備や風土の醸成への取り組みが評価され、2026年9月、当社初となる「くるみん認定」を取得しました。



男性育児休業取得率：

87.5%

(行動計画目標60%以上を大幅超過)

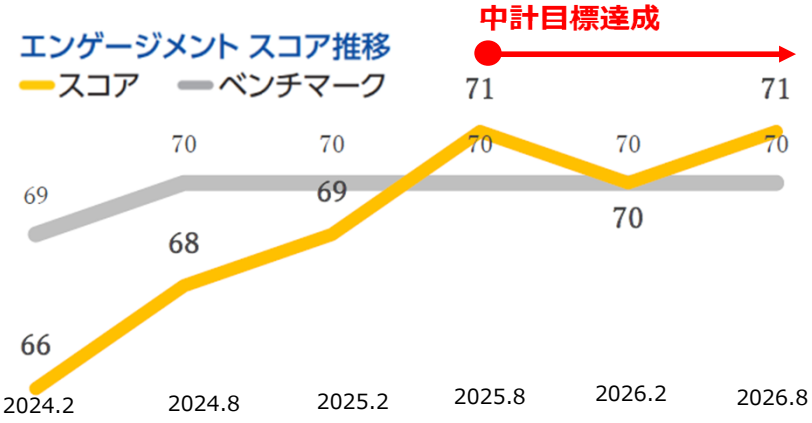
女性育児休業取得率：

100%

(行動計画目標80%以上を完全達成)

エンゲージメントスコア目標継続達成

2024年2月：サーベイ開始
ベンチマーク：医薬業界同規模企業
中計の目標：70ポイント以上を25年2月以降継続して達成
／直近実績：71ポイント達成



企業価値向上策⑤
ステークホルダーとの対話促進/統合報告書発行

企業価値向上に向けた情報開示の一環として、2026年度の統合報告書を発行しました







2026.10.30
NEW RELEASE
こちらリンクよりご覧ください

◆アンケートへのご協力のお願い
今後の統合報告書およびサステナビリティ活動のさらなる充実に向け、ぜひ皆様のご意見をお聞かせください。

こちらリンクよりアンケートにご回答をお願いします

皆様からいただいたご意見は、次年度以降の誌面改善や情報開示の充実に活用させていただきます。

企業価値向上策⑥
IR手法の多様化による投資家コミュニケーション強化

個人投資家向け説明会



個人投資家向けIRセミナーに初参加。事業概要や成長戦略、株主還元方針について説明するとともに、質疑応答を通じて個人投資家との対話を実施。アーカイブ配信も活用し、個人投資家層への認知度向上と新たな投資家層へのアプローチを強化。

日本農薬(4997)個人投資家向けIRセミナー
こちらのURLよりぜひご覧ください

決算説明会書き起こし記事配信

決算説明会 × 投資家

logmi Finance

決算説明会（質疑応答含む）の和英での全文書き起こし記事を、個人投資家や国内外の機関投資家に配信するサービスを導入し、幅広い投資家にアプローチ。2026年3月期中間決算よりスタート。

ログミーFinance｜【決算説明会書き起こし】【IRセミナー】を投資家にお届け - ログミーファイナンス
こちらのURLよりぜひご覧ください

Shared Research（レポート）

シェアードリサーチ社による
当社の調査レポートはこちら
Shared Research

企業分析を行う（株）シェアードリサーチの作成の当社レポート。第三者目線での調査・分析に基づいて作成されているレポートであり、投資家の皆様の投資判断のご参考になるものと考え2025年より導入。

https://sharedresearch.jp/ja/companies/4997
こちらのURLよりぜひご覧ください


Global
Innovator
for Crop & Life

Ⅴ. 質疑応答

代表取締役社長	岩田　浩幸
取締役 常務執行役員 管理本部長	髙橋　史郎
常務執行役員 研究本部長 兼 海外営業本部長	元場　一彦
上席執行役員 経営企画本部長	橋爪　健一
執行役員 経営企画本部副本部長	藤田　恭浩
管理本部財務･経理部長	古賀　幹和
管理本部総務･法務部長	吉岡　正樹

NICHINO

2027年3月期第2四半期（中間期）

決算説明会

Global Innovator for Crop & Life

2026年11月25日

証券コード：4997
東証プライム市場

ご参考資料

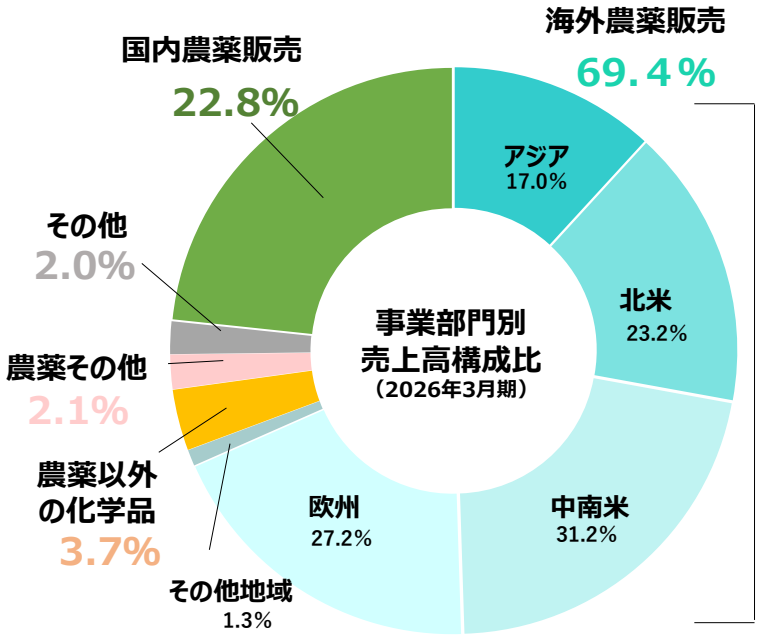
日本農薬株式会社　会社概要

NICHINO グループ基本理念

- 安全で安定的な食と豊かなくらしを守り、サステナブルな社会の実現に貢献します。
- 新たな価値の創造にチャレンジし、社会のニーズに応えます。
- 公正で活力ある企業活動により全てのステークホルダーの期待に応えます。

主な事業内容	農薬、医薬品、動物用医薬品、木材用薬品、農業資材などの製造業、輸出入業、販売業
創立	1928年（昭和３年）
資本金	14,939 百万円
売上高(連結)	111,822百万円
従業員数 (連結)	1,527名
本社所在地	東京都中央区京橋
国内事業所	本社、札幌支店、仙台支店、東京支店、大阪支店、福岡支店、総合研究所、長沼ナーセリー、大阪事務所
代表取締役社長	岩田浩幸
国内子会社数	4社
海外子会社数	15社
当社製品の登録取得国数	100ヶ国以上

2026年3月31日現在

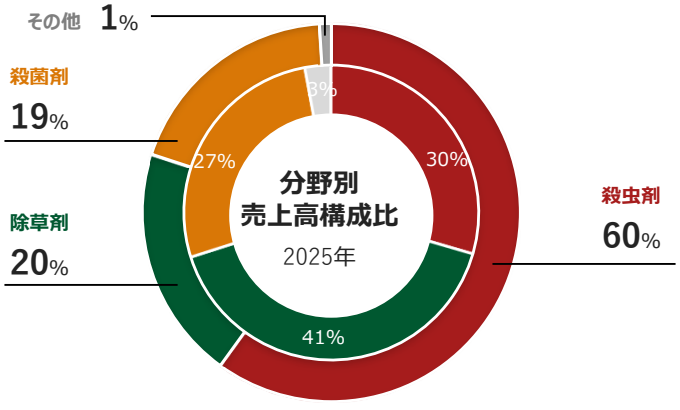


特長：日本の気候・風土に適した農薬に強い

日本の気候･風土を反映：温暖多湿なので殺虫剤需要が比較的大きい

用途：穀物(Row Crop)より果樹や野菜(Specialty Crop)に強い

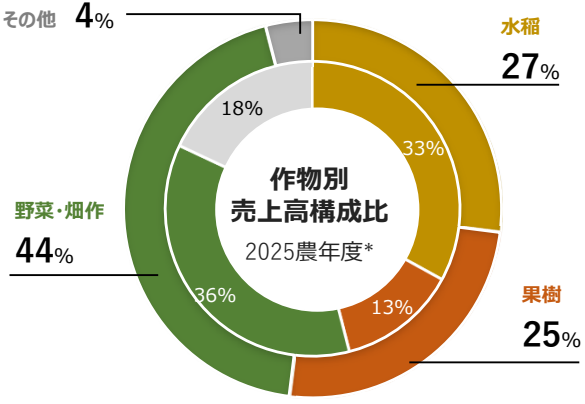
殺虫剤に強い（温暖多湿の日本を反映）



内側：世界の農薬市場
外側：当社の実績

AgbioInvestor より

果樹･野菜に強い



内側：日本の農薬市場
外側：当社自社剤の中心とした販売実績

*2024年10月～2025年9月 クロップライフジャパンより

NICHINO

2027年3月期第2四半期（中間期）

決算説明会

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Global Innovator for Crop & Life

日本農薬株式会社

2026年11月25日